

農学部・農業経済学科 カリキュラムマップ

学習・教育目標	<p>(A) 幅広い分野の知識を習得し、経済・社会問題を理解するために必要な基礎を理解している。</p> <p>(B) 食料・農業・農村問題を理解するために必要な農業基礎を理解するとともに、農業経営・経済学の視点から問題を説明することができる。</p> <p>(C) 食料・農業・農村を取り巻く社会経済問題を理解するために必要な農政学・地域社会学、農業史等の関連専門科目の知識を有し、社会科学の立場から問題の有機的な関連を説明することができる。</p> <p>(D) 食料・農業・農村の現場から問題を発見し、解決していくために必要な調査手法、情報処理のための基礎的知識を有し、課題発見と解決のための仮説設定ができる。</p> <p>(E) 地域社会および企業・経営の現場から問題を発見し、調査によってそれを明確化する課題発見能力</p> <p>(F) 国内外の経済社会および食料・農業・農村に関するデータ・情報を収集・分析し、その位置づけを行う論理的思考力と仮説検証能力</p> <p>(G) 課題を整理して発表し、コミュニケーションを図りながら解決策を提示できる企画立案能力</p>
---------	--

科目区分	授業科目名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習教育目標の項目記号							
					(A)	(B)	(C)	(D)	(E)	(F)	(G)	
農業経済学科 専門科目	必修科目	マクロ経済学	現実の経済では、家計、企業、政府、中央銀行などの経済主体がさまざまな経済活動に携わっています。こうした経済主体による経済活動が一国の経済に及ぼす影響を分析することがマクロ経済学の課題であり、そこから有効な経済政策を導出することがマクロ経済学の役割です。経済活動と景気循環や経済成長、経済政策との因果関係を理解することがこの講義の目的です。	本講義は、農業経済学科の必修科目であり、経済的な知識と理解力を深めることにより、農業経済学を学ぶ基礎学力を高めるものです。	新聞等で日常的に目にする経済に関する事項、語句等に関する理解を深める。また、経済政策と経済成長との因果関係に対する理解を深める。	0.5	0	0	0.1	0.3	0.1	0
		経済学概論	社会経済学(マルクス経済学)の視点から、現代の中心的な社会システムである「資本主義」の仕組み・特徴・問題点について、学習する。	農業経済学科の必修科目(基本講義)に位置付き、農業経済学の習得のために必要不可欠な、基礎理論や基礎知識の習得を目標とする。	社会経済学の基礎理論を習得するだけでなく、世の中の経済問題や社会問題について、自分の頭で、多面的、総合的に考え直す「社会科学」の発想の仕方自身をつけることを目標とする。	0.6	0	0	0	0	0.4	0
	ミクロ経済学	市場均衡、消費理論、生産理論など、ミクロ経済学の基礎を学習する。	農業経済学科の必修科目であり、社会科学の基礎として、経済システムを理解する科目である。	社会科学の基礎的学問として、ミクロ経済学の技術・考え方を修得する。	0.6	0	0	0.2	0	0.2	0	0
	農業経営学	農業経営の特質と戦略とマネジメントの基本について講義する。	農業経営学は経営学の応用であり、複式簿記論は補助となる。また農業経営の管理論と計画論は「経営管理論」と「農業経営計画論」の基礎である。	現実の農業経営において課題となっている様々なマネジメント問題について、客観的に認識するための都道府県などの農業職で勤務する際に困らない程度の一基本的知識・態度を身につける。	0.1	0.3	0.2	0	0.3	0	0.1	0
	農業経済学	農業経済学の講義では、古典的な基礎理論から開発経済、貿易理論など、農業に関わる幅広い分野について講義します。	農業経済学科の必修科目(専門基礎科目)であり、ミクロ経済学、マクロ経済学で得た経済理論を農業問題に適用する。環境・資源経済学、フードシステム論などの専門科目を学ぶ上で基礎となる科目である。	応用経済学の一分野として農業経済学を習得する。	0.3	0.2	0.3	0.2	0	0	0	0
	日本経済史	幕末から現在に至るまで150年間にわたる日本経済史の概説。幕末から現在までの各時代に、日本経済(日本資本主義)がどのような構造を形成しながら展開してきたかを軸に講義する。	現在の日本経済にかかわるさまざまな事象や問題は、人々の歴史的営為の積み重ねの結果である。このことを学んで、日本農業の発達史を理解するのに役立ててほしい。	明治期から現在までの各時代に、日本経済(日本資本主義)がどのような構造を形成しながら展開してきたか、理解する。	0.2	0.2	0.2	0.1	0.1	0.2	0	0

経営戦略論	経営管理は産業革命がもたらした企業の組織拡大という現象のなかから、その必要性に応える形で生み出されてきた。その歴史はここ100年内外のことであり、学問分野としては比較的新しいといえる。しかし、その歴史のなかで経営管理論のトレンドは、いくたびか大きな変遷を経てきている。とりわけ、この20年ほど、経営管理論は多様化の認識をコンセプトとして新たな進化をみせており、産業界と学界が一体となってマネジメントブームが到来している。 この講義では近年の経営管理論を整理しながら、産業社会の成り立ちについて考える。	この授業は農業経済学科の必修科目であり、経営学に関する実践的な知識と論理的に考える力を養う。	この授業では経営学の知識と論理をベースにして、産業社会がどのように成り立っているのかを理解する力を習得する。	0.2	0.2	0	0.1	0.2	0.2	0.1
地域社会学	高度経済成長期以降、地域開発の進展に伴い様々な矛盾が発生してきています。本講義では日本の地域開発の歴史や、都市と農村との関係の変遷をたどりながら、それぞれの時点における、社会、経済、文化などの状況について考えながら、これからの地域づくりのあり方について新しい方向を探っていきます。	将来、地域の行政、農協などの諸団体、地域発展に貢献する企業などで働く場合に不可欠な、地域づくりに関する最低限の知識の習得と判断力の形成が学習・教育目標となります。	現在もこれからも、皆さんが生きていく場所は地域です。その地域を住みよくしていくには何が必要なのか、どうすればよいかということこそ、自ら考えていく力を付けていくことを本講義の到達目標としています。	0.4	0	0.4	0	0.2	0	0
農業史	近現代150年間にわたる日本農業史の概説。明治維新から戦後の農地改革を経てこんにちに至るまで、日本資本主義の展開のもとで日本農業の構造がどう変化してきたかを軸に講義する。	現在の日本の食料・農業・農村にかかわるさまざまな出来事や問題は、人々の歴史的営為の積み重ねの結果である。このことを学んで農業問題の解決に挑んでほしい。	明治維新から農地改革を経てこんにちに至るまで、日本経済(資本主義)の展開がどう変化したか、理解する。 日本資本主義の各段階のもとで、日本農業の構造がどう変化してきたか、理解する。	0.2	0.2	0.2	0.1	0.1	0.2	0
会計学	簿記は企業会計のルールブックであり、ビジネス社会におけるベーシックスキルである。この授業では複式簿記の基礎的な知識を身に付ける。	この授業は、農業経済学科の必修科目であり、卒業後も産業界で通用する実践的な会計知識を身に付けるという目標に対応している。	授業では、日商簿記3級レベルの内容を講義する。授業で学んだ知識を活かして、日商簿記3級以上の資格を取得できる力を養うことが目標である。	0.3	0	0	0.2	0.1	0.3	0.1
アグリビジネス論	経営分析や経営計画の考え方や手順についての理解を深め、コンピュータを利用した実習によってデータ処理の技術の習得をはかる	農業経営学や経営管理論の知識を踏まえて、経営の実践に必要な計画手法を学ぶことにより、農業経営の分析のためのスキルを養成する。	農業経営における経営計画策定のための手法に関する知識を身に付け、その際に必要なデータの収集と分析の手法を習得する。	0.1	0.1	0.1	0.3	0.2	0.1	0.1
農政学	本講義の目的は、主に戦後の日本の農政展開を概観することにある。その際の視点は、戦後日本資本主義の展開と対応させて、農地改革から旧農業基本法制定、農政改革の進展と新基本法への移行を概観する点にある。ただし、主に農地制度・構造政策の展開及び食糧管理制度・価格政策の展開を中心にその対象を限定する。	政治学、経済学、社会学等の基礎社会学と、農業経済学・農業経営学・農村社会学・農業法学等の応用農業社会科学を基礎に、実践性の強い実践応用科学の位置にあり、3年次の必修科目に位置づけられる。	1、日本経済の展開に対応した農政展開の概要の基礎知識の把握 2、現在の日本農政の体系的な概観的理解(食料政策・農業政策・農村政策の関連と内容) 3、農政改革の背景と改革方向に対する時事的理解	0.1	0.2	0.3	0	0.1	0.3	0
フードシステム論	現代の食料システムは、農(漁)業という食原材料の生産から最終消費に至るまでの過程が、無政府的に長くかつ複雑になってきています。このため本講義では、食料の消費と食原材料の生産並びにその間をつなぐ加工・流通等に関わる各産業の相互依存関係を、主に経済学のツールを用いて解き明かします。また、デフレと食料消費の関係や、食料偽造等のアドホックな問題につ	農業経済学科の必修科目であり、農業経済学、農業経営学などの専門基礎科目で得られた知識を踏まえ、農業と食料消費並びに食品産業との関係を経済学の視点から理解する。	本講義では、農(漁)業と食料消費並びに食品産業との相互依存関係を正しく理解し、社会に出てから実践的な問題解決が出来る能力を身につけることを目標とします。	0	0	0.5	0.3	0	0.2	0
農業経済学基礎演習I	少人数(7~8人)によるテキスト講読ゼミであり、農業経済学科の専門科目の基礎を理解できるようになることを目標とする。	農業経済学科の必修科目である。専門基礎科目と連携しながら、少人数教育と文献読解力の向上を目指した演習方式により、社会科学の基礎的理解を深め、3年次のゼミ、4年次の卒業論文作成への基礎トレーニングの位置にある。	1. 基礎的社会科学文献の読み方の習得 2. 社会科学の基礎理論の理解 3. 社会科学の理解に基づく課題発見能力の向上	0.4	0.1	0.2	0.1	0.2	0	0
農業経済学基礎演習II	少人数(7~8人)によるテキスト講読ゼミであり、農業経済学科の専門科目の基礎を理解できるようになることを目標とする。	農業経済学科の必修科目である。より専門的な農業経済学関連分野の理解を深めるとともに、実証分析の手法を習得し、農業経済分析演習・4年次の卒業論文への基礎となる。	1. 基礎的社会科学文献の読み方の習得 2. 社会科学の基礎理論の理解 3. 社会科学の理解に基づく課題発見能力の向上	0.4	0.1	0.2	0.1	0.2	0	0
農業経済学応用演習I	少人数(7~8人)による文献講読・実証分析ゼミであり、農業経済学科の専門科目の深い理解を進めるとともに、データ、資料に基づく実証分析の手法を習得する。	農業経済学科の必修科目である。より専門的な農業経済学関連分野の理解を深めるとともに、実証分析の手法を習得し、農業経済分析演習・4年次の卒業論文への基礎となる。	1. 農業経済学の専門分野の文献を読み、調査・分析手法を理解できる 2. 設定された課題に対し、調査、データ、資料に基づき、実証分析を行うことができる	0	0.1	0.2	0.3	0.2	0.2	0

	農業経済学応用演習II	少人数(7~8人)による文献講読・実証分析ゼミであり、農業経済学学科の専門科目の深い理解を進めるとともに、データ、資料に基づく実証分析の手法を習得する。	農業経済学学科の必修科目である。より専門的な農業経済学関連分野の理解を深めるとともに、実証分析の手法を習得し、農業経済分析演習・4年次の卒業論文への基礎となる。	1. 農業経済学の専門分野の文献を読み、調査・分析手法を理解できる 2. 設定された課題に対し、調査、データ、資料に基づき、実証分析を行うことができる	0	0.1	0.2	0.3	0.2	0.2	0
	農業経済分析演習	卒業論文の準備段階として少人数(4人程度)で行うゼミである。食料・農業・農村に関する現状を踏まえ、自らの関心により課題を設定し、先行研究の整理および実証分析を行い、その結果をレポートにまとめることにより、卒業論文作成に必要な知識、能力を養う。	農業経済学学科の必修科目である。食料・農業・農村の現場から課題を発見し仮説設定を行うとともに、調査・統計・資料に基づく実証分析を行う能力を養い、4年次の卒業論文の作成につなげる。	1. 食料・農業・農村の現状を理解する 2. 関連文献の収集と整理をすることができる 3. 自ら課題設定を行い、適切な手法を用いて実証分析を行うことができる	0	0	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
	卒業論文調査	卒業論文指導教員のもとで実施する。必修科目なので聴講届は必ず提出すること。	卒論指導に運動して、調査、資料収集、整理、分析を行い、卒論作成に結びつける。	卒業論文作成のための、調査、資料収集、整理、分析を行う。	0.1	0.1	0.1	0.2	0.2	0.2	0.1
	卒業論文	3年後学期期末に、分析ゼミ担当教官と相談の上、卒論希望テーマを提出してもらい、各教官に3~5名単位で配属される。その後は卒論指導教官の指導で卒論作成に向けてゼミナールを行う。	4年間の学習成果を、自ら選んだ卒論テーマに沿って学習・研究を進め、卒論作成に結びつける。卒論作成を通じて、問題発見能力、課題解決能力、分析手法を身に付け、中間報告会、卒論審査会でのプレゼンテーション能力を身につける。	卒業論文の作成	0.1	0.1	0.1	0.2	0.2	0.2	0.1
選択科目	財政学	財政とは、国や地方自治体などの公共部門の経済活動のことである。その規模はGDPの大きなウエイトを占めており、現代経済は財政を抜きに語れない。本講義では、日本の財政の仕組みや原理を概観しつつ、財政民主主義の視点からその課題を検討することにある。なお、講義では主に財政支出(経費論・公共投資・社会保障)を中心に扱い、租税論は簡略化する。また、公務労働を目指す学生を念頭に置き、特に地方財政に力点をおいて講義を行いたい。	農業経済学学科の選択科目である。経済学、政治学等の基礎社会科学の応用社会科学の位置にある。	1. 財政の基本的仕組みと財政民主主義の理解 2. 財政の経済的機能の理解 3. 公共投資、社会保障政策の理解 4. 財政赤字と財政再建問題の理解 5. 地方財政の仕組みと地方分権の理解	0.3	0	0.3	0	0.3	0.1	0
	環境・資源経済学	経済学(主にミクロ経済学)の理論をベースに、環境・資源問題がなぜ起こっているのか、どのような方法で解決することが可能であるかを理解する。	農業経済学学科の選択科目(専門関連科目)であり、ミクロ経済学、マクロ経済学、農業経済学で得た知識をベースに、環境・資源問題に対して経済学の視点から理解を深める。	環境税や排出権取引制度など環境政策手段の基本的な考え方を理解する。農業をはじめとする経済活動に関わる環境・資源問題の現状を知る。	0.2	0.1	0.5	0	0.1	0.1	0
	民法概説	私法の一般法と言われる民法の概要を理解する。私法と言ってもその範囲は非常に広く、これを民法に限ってみてもやはり相当に広範囲の事柄を含んでいる。そこで、本講では、細かい論点を学ぶことはせず、民法的な考え方を身に付けることに主眼を置いて授業を行う。	農業経済学学科の選択科目であり、経済・社会問題を理解するために必要な社会科学の基礎を理解するという目標に対応している。	民法の概要を理解し、民法的な考え方を身につける。	0.6	0	0.4	0	0	0	0
	農業法律	戦後の農業政策の変遷を踏まえた上で、農業に関する法制度の頂点に位置する食料・農業・農村基本法を旧基本法の農業基本法と比較対照しながら学びます。また、農地法や土地改良法等の個別の農業に関する法律の概要を農業基本法や食料・農業・農村基本法の下での農業政策と関連づけながら解説します。	農業経済学学科の選択科目である。農業法律は、基本講義として3年次の必修科目とされている農政学と密接に関連しています。農政学を学ぶ上で、農業に関する法制度の体系的な理解は欠かせません。そして、農業に関する法制度を体系的に理解するためには、その頂点に位置する食料・農業・農村基本法を正確に理解することが第一歩です。そのような観点から授業計画を立てています。	食料・農業・農村基本法と農業基本法の新旧両基本法の異同を正確に把握した上で、農地法や土地改良法等の個別の農業に関する法律が農業政策の変遷の中でどのような役割を果たしてきたかを理解することを到達目標としています。	0.4	0	0.6	0	0	0	0
	比較農業構造論	「国際化」の流れの中で、農産物の輸入が増加し、日本農業の展望が見えにくくなってきています。農業生産は減少傾向にあり、農業就業者の高齢化も進んできています。中山間地域農村の農地の荒廃化も進んできています。そうした状況下で、「農業を巡る情勢は厳しい」と語られてきています。本講義ではこうした状況を踏まえつつ、これまでに日本の農業構造の変革や日本農業の展望について論じてきた様々な理論を紹介しながら、これからの農業、農業構造のあり方を検討していきます。	将来、農業、農村に関連する行政、農協、企業などで働く場合に不可欠な地域農業、農村に関する最低限の知識の修得と判断力の形成が学習・教育目標となります。	これまでの日本農業の発展の各局面で、農業理論が日本の農業構造をどうとらえ、どう発展の芽を見つけ、それによってどう発展の道筋を付けてきたのかという視点を大切にします。そしてこれからの日本農業、農村の進路について自ら考えていく力をつけていくことを到達目標としています。	0	0.4	0.4	0	0.2	0	0
マーケティング論	基礎的なレベルのマーケティングについて講義を行う。また、知識の定着を図るために、グループワークやプレゼンテーションの機会を設ける。	農業経済学学科の選択科目であり、基礎科目と専門科目・トレーニング科目を架橋する科目として位置づけられる。	①マーケティングの基本的な知識の習得、②マーケティング感覚・コミュニケーション能力の育成。	0.1	0.3	0	0.1	0.1	0.1	0.3	

応用経済学	高度なミクロ経済学の理論について学び、理論を社会に適用する方法を学ぶ。	基礎的学問であるミクロ経済学について、さらに高度な理論を習得し、その応用手順を学ぶことで、自発的な研究を行う能力を養う。	応用範囲の広い経済学の高度な理論、および応用の方法を習得することで、経済学を使った研究を展開できるようになる。	0.3	0	0	0.4	0	0.3	0
計量経済学	農業経済分野における数値解析の基礎である回帰分析を主要なものとして、計量経済の理論を学ぶとともにExcelを利用した応用技術の習得を行う	農業経済学科の選択科目である。農業統計学で学んだ基礎理論をベースに、情報処理の基礎的能力を修得することで、情報の収集、整理、解析を行うことによって、問題点を発見し、解決する能力を養う。	自ら情報の収集、整理、解析を行うことができる能力、問題点を発見し、解決する能力を培い、卒業論文作成の基礎的能力をつける。	0	0	0	0.4	0.2	0.4	0
現代農政学	本講義では、食料・農業・農村基本法(新基本法)成立過程から現在までの農政展開を概観するとともに、食料政策(WTO・食品産業・食生活・食の安全)、農業政策(食糧管理・農地制度・担い手育成政策など)、農村政策(中山間地域対策・農地水環境対策・地域活性化対策など)、各論的に現代農政の仕組みを概観する。	農政学、農業経営学、地域社会学、農業史などの基礎知識を基礎に、現代の農業政策の仕組みと機能を修得することを目標としており、特に80年代までの農政学の講義と連関して、90年代以降の農政展開と現代農政の仕組みを各論的に把握することを目標としており、3年次の選択科目となっている。	食料・農業・農村白書等に記載されている日本農業の現状と農政の仕組みを体系的に理解することを目標としており、併せて現代の農政にかかわる時事問題の理解と論点を系統的に身につける訓練を行う。	0	0.4	0.4	0	0	0.2	0
農業経済学特別講義I	農業、農業関連産業、行政の現場で活躍している人を外部講師として招き、各分野のトピックについて講義を受けて頂く。	農業経済学科の選択科目である。専門科目の講義で学んだことが現場でどのように生かされるかを知り、課題発見能力を養うとともに、卒業論文や就職活動に必要なコミュニケーション能力の向上を図る。	1. 農業経済学科の専門科目で学んだことと農業・関連産業の現場との関連を理解する。 2. 社会で活躍している人の話から刺激を受け、自らの学生生活、就職活動に生かす。		0.1	0.3	0	0.3	0	0.3
農業経済学特別講義II										
農業経済学特別講義III										
開発経済学	アジアの経済発展における農業部門の役割、および農村経済にみられる様々な機能について、最新の研究動向の紹介を中心に開発経済学に基づいて解説していく。	農業経済学科の選択科目(専門関連科目)であり、農業経済学、ミクロ経済学、農業統計学などの講義と深く関連している。	1. 開発経済学の基本理論を理解する 2. アジア諸国の経済発展の現状について知る 3. 経済発展と農業の関わりを経済学の視点から理解する	0.3	0	0.5	0	0	0.2	0
海外の農業I(中国)	年々世界経済の中での比重を大きくしている中国の食料需要と農業生産の歴史的展開と現状を把握し、農業経済的な視点から中国農業を理解する。	農業経済学科の選択科目である。日本を離れた世界的な幅広い視野で物事をとらえる視点を養うことを学習目標としている。	1. 中国の食料供給、農業政策の現状を社会科学的な視点から理解する 2. 講義を通して、他国への興味を高め、国際感覚を養う	0.3	0.1	0.1	0	0.1	0.3	0.1
海外の農業II(アメリカ)	アメリカ農業の成立過程を史的展開として把握し、アメリカ農業の建設が社会にどのような影響を及ぼしたのかを考えると、現代のアメリカ農業が抱えている強さ、弱さを分析していくことで、農業経済的な視点からアメリカ農業を理解する	農業経済学科の選択科目である。そこでは日本を離れた世界的な幅広い視野で物事をとらえる視点を養うことを学習目標としている。	アメリカ農業の姿は日本農業とはまったく異なると思われるけれども、視点を変えていけばそこに共通項が見えてくる。授業ではアメリカ農業を対象に受講生の気づきの力を呼び出したいと考えている。	0.3	0.1	0.1	0	0.1	0.3	0.1
海外の農業III(EU)	1990年代から現在に至るEU共通農業政策改革の推移を、ガット・WTO多角的貿易交渉(ラウンド)の下で行なわれた農業交渉の状況に配慮しながら追跡することを課題としている。とくにEUが近代農業を進める中で1980年代から顕在化した農産物の過剰、財政逼迫問題に対して、環境保全型農業の政策的育成がどのような意味を持っているのかを考えたい。	農業経済学科の選択科目(専門関連科目)であり、農業経済学、農政学などの講義と深く関連している。農業環境政策の知識とともに、日本を離れた世界的な幅広い視野で物事をとらえる視点を養うことも目標としている。	EU農業に対する関心を高めるとともに、農業と環境の接点を探りたい。	0.1	0.3	0.5	0	0	0.1	0
農協論・農業金融論	農業協同組合の成立と展開、機能と問題、今後の展望並びに、農業、農村をめぐる資金循環構造、農協系金融と制度金融、そして農業金融に関する諸問題について講義する	農業経済学科の選択科目(専門関連科目)であり、日本経済史、農業史、農政学などの講義と深く関連している。	我が国農業問題の理解と農業政策のあり方を考えるための基礎的知見を提供する。	0.4	0	0.6	0	0	0	0
農村調査実習	2泊3日の日程で農村に出かけ、農家調査を行うことで、農業問題の具体的な諸相を認識する。	2年次までに学んだ講義や演習の成果を前提に、直接現場である農村に出かけ、農家を訪問して調査することで農業問題の具体的な諸相を認識してもらう。	1. 農業・農村の実態調査を通じて、講義・演習でえた農業・農村問題についての一般的認識を深める。 2. 農業・農村問題についての社会科学的方法な調査方法を身につける。	0.1	0.1	0.1	0.2	0.2	0.1	0.2
農業インターンシップI	県内の農業士を中心に、研修希望学生を受け入れてもらう。実地での農業経験を通じて、授業で学んだ知識をより深く習得するとともに、その知識を社会でどう生かすか考える力を身に付ける。	農業経済学科の選択科目である。農学部コア実習、農業経済基礎演習の発展課題に位置づくとともに、自分の問題意識に基づく卒論作成や卒業後の専門的職業人となるためのトレーニングでもある。	1. 授業等で学んだ知識と現場で求められる知識の接点とギャップ、新しい課題の発見 2. 現場からものを考える姿勢の修得 3. 卒論作成や社会人になるためのトレーニング	0	0.1	0	0.1	0.5	0.1	0.2
農業インターンシップII	県内の農業士を中心に、研修希望学生を受け入れてもらう。実地での農業経験を通じて、授業で学んだ知識をより深く習得するとともに、その知識を社会でどう生かすか考える力を身に付ける。	農業経済学科の選択科目である。農学部コア実習、農業経済基礎演習の発展課題に位置づくとともに、自分の問題意識に基づく卒論作成や卒業後の専門的職業人となるためのトレーニングでもある。	1. 授業等で学んだ知識と現場で求められる知識の接点とギャップ、新しい課題の発見 2. 現場からものを考える姿勢の修得 3. 卒論作成や社会人になるためのトレーニング	0	0.1	0	0.1	0.5	0.1	0.2

		農業インターンシップⅢ	県内の農業関連団体、行政機関を中心に、研修希望学生を受け入れてもらう。実地での経験を通じて、授業で学んだ知識をより深く習得するとともに、その知識を実社会でどう生かすか考える力を身に付ける。	農業経済学科の選択科目である。専門基礎科目、農業経済基礎演習の発展課題に位置づくとともに、自分の問題意識に基づき卒論作成や卒業後の専門的職業人となるためのトレーニングでもある。	1. 授業等で学んだ知識と現場で求められる知識の接合とギャップ、新しい課題の発見 2. 現場からものを考える姿勢の修得 3. 卒論作成や社会人になるためのトレーニング	0	0.1	0	0.1	0.5	0.1	0.2
		国際経済論	国際経済に関わる事象の中で、貿易・投資、企業経営(「企業の社会的責任」の問題を含む)に関する問題を扱う。	他学部開講の農業経済学科選択科目であり、経済・社会問題を理解するために必要な社会科学の基礎を理解するという目標に対応している。	1) 国際経済に関する基礎的な事柄・用語等を理解する 2) 国際社会の政治的・法的・社会的プロセスと経済的プロセスとの相互作用について理解を深める	0.7	0	0.3	0	0	0	0
		途上国経済発展論	国連を通じてミレニアム開発目標が合意されましたが、その最大の課題である「貧困」を、世界はどのように捉えているのでしょうか。本講義は、「貧困」が集中していると考えられている「発展途上国」に焦点を当て、「貧困」の定義や関連データ、さまざまな発展・開発に関する理論を学びます。	他学部開講の農業経済学科選択科目であり、食料・農業・農村を取り巻く社会問題を理解するために必要な関連専門科目の知識を有し、社会科学の立場から問題の有機的な関連を説明することができるという目標に対応している。	「貧困」及び発展途上国の発展・開発に関する理論を理解・応用できるようにすることを目標とします。	0.4	0	0.6	0	0	0	0
		行政学	現代行政学の基礎的な考え方と体系的な知識について、日本における事例も紹介しつつ、制度論、管理論、政策論を分かりやすく説明する。	他学部開講の農業経済学科選択科目であり、経済・社会問題を理解するために必要な社会科学の基礎を理解するという目標に対応している。	行政の概念から始めて、現代行政学が成立するに至った現代国家の特質、政治と行政との関係、行政サービスの範囲、政府間関係論、行政官俸制、行政管理、行政計画、行政能率、行政裁量といった行政学の基礎概念を理解し、具体的事例を紹介することで、現代政府の諸活動についての興味関心を持たせ	0.7	0	0.3	0	0	0	0
		農学部他学科の科目	農学各分野の基礎を広く学ぶ。	学習・教育目標(B)の食料・農業・農村問題を理解するために必要な農学基礎の理解に関連している。	農学の基礎を学ぶことにより、食料・農業・農村に関する社会経済問題との関連を理解する。	0	1	0	0	0	0	0
基盤教育科目	初期導入科目	新入生セミナー	大学生活を送るうえで必要とされる、自主的かつ自律的な態度および学習の進め方を学ぶことができるように企画された科目である。	各学習・教育目標を達成する基礎として、新入生を大学における学習全体へと導く役割を担う必修科目である。	・日々の生活や学習における自己管理、時間管理ができるようになる。 ・大学という場を理解するとともに、学習を進めるうえで必要な知識、技能を身に付ける。 ・将来的なキャリア形成を見通しながら自己を認識し、それぞれの専門分野とつながりのある職業について学ぶことで、今後4年間の過ごし方について考え	1	0	0	0	0	0	0
	リテラシー科目	英語	1年次において、「Integrated English A」では、Study Skills の養成後、Oral Communication と Readingを主とした4skills (speaking, listening, reading, writing) の育成を、「Integrated English B」では、Oral Communication とWritingを主とした4skills の育成を図る。2年次以降の「Advanced English I、II、Advanced English III」の各クラスにおいては、基本的な英語運用能力を基に、個々の学生の興味に応じて、特定のskillに焦点をあてた英語力の育成を図る。 TOEICによりクラス分けを行い、習熟度に対応した英語力養成を徹底し、入学時に英語能力が高い学生には、通常学生と異なるHonors Programを、4年間にわたり履修可能とする。 以上のカリキュラムによって、卒業までに「現在国際的に活躍しているビジネスパーソンの平均的英語力」以上に到達する学生が、全学生の50%以上になることを目指す。	地球的視野を持った21世紀型市民を育成するために、国際的な通用性を備えた質の高い英語力を養う科目である。	「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能のバランスのとれた総合的なコミュニケーション能力とともに、文化的背景に関する知識についても学習することで、仕事や専門分野の研究に必要な基本的英語運用能力が身に付いている。	1	0	0	0	0	0	0

スポーツと健康	<p>集団的スポーツと個人的スポーツ(軽スポーツ的な内容を含む)から、学生は、希望の種目を受講する。自己の体力および心身の健康への認識を深め、運動する楽しさ、ストレス発散、技能の向上を図る。チームワークを高め、試合運営について熟知できるようにして、様々な人達と接する機会を増やしながら、グループ間での学び合いなど、社会・対人関係力の形成に努める。また、運動する楽しさや意欲的な学習への動機づけも行う。</p> <p>以上のカリキュラムによって、履修した運動種目の知識、技能の基本的な能力の修得を通し心身の健康を維持し、体力向上への意識づけを図るとともに今後発展するコミュニケーション能力、リーダーシップの基盤を養成することを目指す。</p>	生涯にわたる豊かなライフスタイルの形成に向けた心身の健康の重要性を、スポーツの経験を通して理解させる科目である。	身体・体力面(自己コントロール、適応力、耐力、自律性、達成感など)とともに社会・対人関係面(共感力、リーダーシップ、協調性、連帯感、コミュニケーションなど)における能力が身につけている。	1	0	0	0	0	0	0
とちぎ終章学総論	<p>2025年、65歳以上の高齢者が日本の総人口の30%を超えると予想されている。今後ますます様々な環境において高齢者と共に生きる社会になる。そこで、高齢者に関する課題を自らの問題として捉え、高齢者と共に生きるため、また、自分自身も豊かな終章を生きるための知識について学ぶ。</p> <p>「とちぎ終章学」という言葉には、人生の最後の時期を困難や苦しさの中で過ごしていくのではなく、どのように豊かに、幸せに暮らしていくのかという問いと、栃木県の地域課題である高齢化について学ぶ。</p>	<p>基盤教育科目の目標である行動的知性の養成を進めるために、特に学内外の講師や実践家による社会問題の第一線から見た世界を広げようことを意図している。また、学生同士のコミュニケーションを促すアクティブ・ラーニングという新しいスタイルでの教養科目として位置づける。そのため、双方向型の討論等を積極的に取り入れた参加型の授業スタイルを導入して、学生の主体的な参画により、課題解決に向けた知的統合へと</p>	<p>人間がどのように老いていくのか、その生き方の多様性を理解し、関心を持つ。</p> <p>・高齢社会における生活をめぐる課題について理解し、解決策について考える。</p> <p>・自らのこととして老いや終章について考えることにより、人生を積極的に生きる意欲を喚起する。</p>	1	0	0	0	0	0	0
情報処理基礎	<p>情報化社会で必要不可欠とされる情報および情報手段を主体的に選択し活用していくための基礎的な能力を学び、情報活用の実践力を養い、情報の科学的理解を深める。</p>	すべての学生が共通的に持つべき情報リテラシーの修得を図る目的で企画された必修科目である。	情報社会に創造的に参画する素養を身につける。	1	0	0	0	0	0	0
教養科目	人文科学系科目	<p>哲学、心理学、文学、芸術、人文総合領域の領域からなり、これらの科目を履修することによって、人文科学に関する基礎的な知識と考え方を修得させる。</p>	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうち的人文科学系の科目である。	教養の根本である哲学、心理学、文学、芸術の入門を学び、人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え方を、文学、文化、芸術の評価や鑑賞のための基本が身につけている。	1	0	0	0	0	0
社会科学系科目	<p>日本社会のみならず、国際的な視野に立ち、それぞれの社会の理解を深める過程を通じて、我々の日常生活を取り巻く環境を正しく理解し、現実社会の様々な問題に対応可能な理解力や思考能力を養う。「法学領域」、「政治学領域」、「経済学領域」、「社会学領域」、「地理学領域」、「歴史学領域」の6領域に、これらの領域を横断する「社会総合領域」を加えた7領域の科目から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。</p>	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうち社会科学系の科目である。	政治・社会・経済といった我々の日常生活を取り巻く環境を正しく理解し、現実社会の様々な問題に対応可能な理解力や思考能力、そこに主体的に働きかけ、よりよい社会を形成してゆく力が身につけている。	1	0	0	0	0	0	0
自然科学系科目	<p>自然科学に関する幅広い基礎知識や技能、また、現代の科学技術および最先端の研究に関する知識や方法論を養う。そのために、「数学」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」、「情報」の領域に関する科目、および、これらの複数の領域にまたがっている科目群から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。</p>	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうち自然科学系の科目である。	持続可能な社会の形成を担う先進性と独創性を有する21世紀型市民にふさわしい自然科学に関する幅広い教養が身につけている。	1	0	0	0	0	0	0
健康科学系科目	<p>大学在学中および将来にわたって生活の基盤となる「運動」、「栄養」、「休養」に関する諸科学を修得することで、健康科学に関する幅広い教養と実践力を身につけることを目指している。「スポーツの文化や社会での役割、トレーニング法とその効果」に関する科目、「食と栄養」に関する科目、「心身の健康」に関する科目などから各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。</p>	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうち健康科学系の科目である。	生活の質的充実の基盤となる食事や健康の重要性とスポーツの果たす役割やスポーツが本来有する「楽しみ」を知り、自ら健康を維持増進させるための基本的な知識と実践力が身につけている。	1	0	0	0	0	0	0

	初習外国語系科目	<p>大学入学前に、それぞれの言語を学習したことがない初習者を対象に、「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」力を養う「初習外国語基礎Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」を開設する。上記科目を修得学生のために、各言語の基礎的能力を確認しながら、コミュニケーションやプレゼンテーションなどの実践的な能力の向上を図る「初習外国語応用Ⅰ、Ⅱ」を開設する。</p> <p>一つの言語について6つ段階別授業を通して学ぶことにより、各言語の基礎的コミュニケーション能力を段階的に向上させることが可能である。また、「初習外国語基礎Ⅰ、Ⅱ」のみを履修することによって、自律的な語学学習スキルを獲得することも可能となる。</p>	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうち初習外国語系の科目である。	初習外国語について「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」ことに関する基礎的能力、諸外国や異文化の多様性への興味・理解、地域的な視野を踏まえた幅広く深い教養と豊かな人間性、語学学習を通じた自律的な大学での学びの基礎が身につけている。	1	0	0	0	0	0	0
	総合系科目	<p>教室外活動の実施、大学内外からの講師の積極的登用、授業を一般市民に公開することによる社会との交流などを取り入れながら、アクティブ・ラーニングという新しいスタイルでの教養科目とする。教員と学生間、あるいは受講生同士の双方向型の討論等を積極的に取り入れた授業スタイルの課題解決型学習を中心とし、受講生の主体的な参画により、課題解決に向けた知の統合と実践を行う。さらに、企業等から提供される授業もあわせて実施し、現在および将来にわたり“あらたな社会”を創るうえで求められる行動的知性を養成する。</p>	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうち課題解決力の養成を目標とする科目である	社会問題や企業の第一線から見た世界を知ることにより、変化が激しい現代社会への視野を広げながら、持続可能な社会を創造するために必要な、科学的な根拠を備えた提案や行動に繋げられる課題解決力、行動的知性が身につけている	1	0	0	0	0	0	0
	基盤キャリア教育科目	<p>「自分がどんなキャリアデザインを描くのか、どんな大学生活を送ったらよいか、どんな職業選択をするか」を意識しながら学び、職業や働き方への理解や自己理解を深めていく。座学だけでなく、グループワークやインタビュー、外部講師のレクチャーを通じて社会との接点を持ちながら学ぶことを重視し、学生自身の行動や体験を通じたキャリアデザイン力の育成を図る。</p>	学生の社会的・職業的自立に向け、必要な能力や態度(キャリアデザイン能力)の基礎を育成するための科目である。	変化する社会の中で未来を切り拓く知力と行動力を持ち、社会的・職業的に自立して新しい時代に自分らしく活躍することを目指す姿勢、職業や働き方への理解、自己理解を深めるために必要な知識・技能を修得し、自らキャリアデザインを行う基礎が身につけている。	1	0	0	0	0	0	0
専門 導入 科目	農業と環境の科学	地球環境問題から循環型社会に至るまで、農業をめぐる様々な環境問題の一般知識や考え方を学んだ上で、持続型社会を支える農業及び農学の全体像を把握していただきます。	【カリキュラムの学習・教育目標との関連】 この授業は宇都宮大学農学部学生全員が学ぶ共通コアカリキュラムの1つです。	環境保全や持続的生物生産に関する知識と理解を深めることを目標にしています。	0.1	0.5	0.2	0	0.2	0	0
	生物資源の科学	この授業は、皆さんが宇都宮大学農学部で修学する重要な農学部コア科目の一つです。この授業では、農業及び森林・林業の概要を把握し、また生命科学、そして農業と森林の科学に関する一般的知識を学習します。	【カリキュラムの学習・教育目標との関連】 この科目は、農学部コア科目の一つです。農学部のすべての学生が履修します。	この授業では、農業及び森林・林業の概要を把握し、また生命科学、そして農業と森林の科学に関する一般的知識を修得することにより、環境保全や持続的生物生産に対する理解を深めることを目標としています。	0	0.7	0	0	0.3	0	0
	農学部コア実習	この授業は、皆さんが宇都宮大学農学部で修業する重要な共通コア科目の一つです。宇都宮大学農学部では、総合科学としての農学について教育・研究を行っていきにあたり、フィールドワークを重視しています。本カリキュラムでは農林業の現場などを実際に体験することを目的としています。そのため、附属農場・附属演習林での実習などに加えて、アグリビジネスや研究所の訪問学習など農林業に関連した幅広い体験をし、現場から発想し、現場に貢献するという視点を養います。	【カリキュラムの学習・教育目標との関連】 主に農学に関する基礎知識を講義で受けるが、本講義では農学部共通コア科目の一貫として、フィールドワーク重視の実習科目であり、現場から体験的に学習する姿勢を身につけ、その後の専門講義の基礎的実習科目に位置づけられる	1. 農作業体験や見学実習によるフィールドワークへの心構えの修得 2. フィールドワークによる新鮮な問題意識の醸成と課題意識の獲得 3. 協同して作業する楽しさや達成感の獲得	0	0.2	0.2	0.1	0.4	0	0.1